## 第４節　光構内の立会調査

### 1　教育学部附属光小中学校プール新営給水管埋設工事に伴う立会調査

**調査地区**　光構内

**調査期間**　平成6年2月16日

**調査面積**　約19㎡

**調査結果**　平成５年度補正予算により、プール新営工事計画が具体化した。光構内では、工事予定地の南東側に隣接する武道場新営に伴う発掘調査で、古墳時代と中世の2面の遺構面を検出している[1)]ほか、工事予定地の北側約100mに所在する体育館の新営工事の際には、縄文時代から中世にかけての遺物包含層を検出している[2)]。したがって工事予定地全域に渡って遺物包含層が埋存する可能性が推測された。ただし新営工事は既存施設の基礎撤去後、同位置に計画されたため、地中の埋蔵文化財は既に消滅していると判断し、新営施設に付随する給排水管埋設工事に伴い必要となる新たな掘削について立会調査を行った。

調査はプール北側の量水器用の桝設置地点を中心に実施した。桝設置地点の掘削規模は約3m×2m、深度約１.8mに及んだ。この他に約1m×1m、深度約1mで2ヶ所の地点と管路部分の調査を実施した。

層序は、現地表下約30cmまでは黄褐色砂の表土、約30～40cmまでが暗茶褐色砂、約40～55cmまでが茶褐色砂、約55～110cmまでが明黄褐色砂、それ以下は白黄色砂となる。約30～55cmまでの暗茶褐色砂及び茶褐色砂には土器小片が混じり、遺物包含層と考えられる。混在の程度は、Ｃ地点付近では表土下の暗茶褐色砂でやや多めに検出したものの全般的には顕著ではなかった。出土遺物は近世陶磁器や時期不明の土器の小片で、図示できるものは含まれなかった。

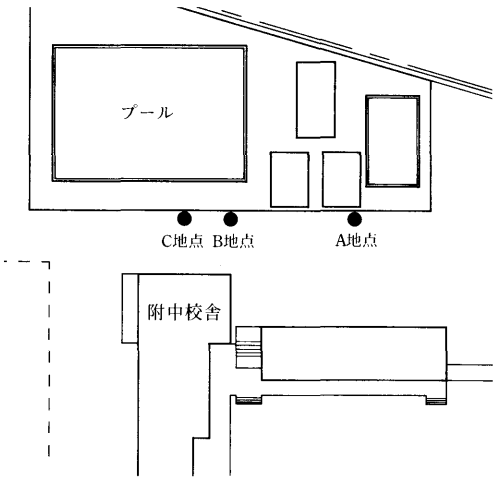


Fig.128　調査区位置図

［注］

1）山口大学埋蔵文化財資料館「光構内教育学部附属光中学校武道館新営に伴う発掘調査」（『山口大学構内遺跡調査研究年報』XII、1994年）

2）福本幸夫「御手洗遺跡」（『先史時代の光市』、1966年）